詠む

毎日歌壇

米川千嘉子 選

振り袖を着た数日後防護服姿で鶏の死骸を運ぶ
千葉市 深海 泰史

〈評〉鶏インフルエンザによる鶏の殺処分。養鶏場の従業員や自治体の職員がかり出される。まとうものの落差こそ現実だ。

のそのそと街歩いてるおばあさんの着ぐるみのなかに私はいない
京都市 高橋よしこ

〈評〉前の一首とも対照的な着ぐるみの歌。人はみんな着ぐるみを着ているのかも。

プライバシー保護のためシール貼られたる絵馬も神にはつぶさに見ゆる
千曲市 中村 美樹

弟が初詣に行き延命箸をもっと生きよかと九十一歳に
富田林市 竹内 治枝

パンジーの顔は怒っているという子どもの細き告発の指
東京 石川 真琴

吹き抜けのリビングにストーブはひとつゆり根のように小さく過ごす
碧南市 江原 冬莉

昭和より映りは良きも釈明の歯切れが悪いテレビをたたく
新発田市 飯田 英範

太宰に無い四十代経て森のなか三島の持たざる五十代に入りぬ
小平市 真鍋 真悟

迷ってる。同窓会はあの頃の嫌なわたしを知る人ばかり
所沢市 里見 脩一

医療費の明細を書くささやかな減税を楽しむ睦月の夜は
東京 島 半蔵

水原 紫苑 選

五千円 りぼんを結んで得るお金みんながいいならわたしもいいよ
横浜市 大原 香花

〈評〉この世にりぼんを結んでお金を得る方法があるのか。そして下の句の謎めいた「いいよ」とは何だろう。何がいいのか、言ってくれと思う時とりこになる。

流氷のようにはげしくさみしいよ、塩や言葉をこぼしてばかり
加古川市 石村 まい

〈評〉流氷は何をこぼすだろうか。声をあげて泣くと言われる流氷はほんとうにさみしいだろうか。

夕焼色から闇の色へと移行する路面電車の無防備な白
甲府市 村田 一広

あした鳥に運ばれてゆく人のため宝石になるまでジャムを煮る
東京 碓井やすこ

正義ってあるのだろうか足の甲つよくつよく打つ雨の粒にも
千葉市 芍 薬

そういえばカマキリだって死ぬんだよ。冬はこんなに透き通るのに
神戸市 入間しゅか

一夜にて海渡る月この部屋もゴビ砂漠めぐり帰りし部屋かも
宮津市 野 ばら

月までの距離は意外と短くて地球一周10回するだけ
倉敷市 中路 修平

森閑と手鍋に塩をふるあとの祈りを帯びた指の交わり
名古屋市 岩塚 光希

玄関で話し込みたる少女たちミモザのやうなひかりをまいて
千葉市 小金森まき

伊藤 一彦 選

壊れてもいい心などないからさ もっと下がって電車が来るよ
鳥取市 中之島 潤

〈評〉ホームで危険な場所に立っている人を見ての歌か。もしかして電車に飛び込むのではないかと案じて心で呼びかけている。

庭に来て遊ぶすずめの六、七羽 小さく大きな信頼感じる
池田市 黒木 淳子

〈評〉スズメが安心して庭に来てくれることを喜ぶ歌。「小さく大きな信頼」が光る。

こんなこと本当にあっていいのかと言わずにニュースさらさら流る
垂水市 岩元 秀人

分断と言ってしまえば何事もわかった気になる魔法のことば
仙台市 多田 宜文

新聞が背中を押してくれる日々ひとりでいてもぼっちにあらず
筑紫野市 桂 仁徳

本当に凄い人なら目立たない それが励みの目立たない人
つくば市 小林 浦波

特急が臨時ダイヤで各停をやらされた時みたいな日々だ
枚方市 久保 哲也

冷めてゆくキャラメルラテを眺めてる一人になるため入ったカフェで
奈良市 久保 祐子

夢のなかの私はいつも蝶なのにきみの前では蛹にもどる
相模原市 榎本 ハナ

くちびるに糸をひきつつ絡みあう激しく交じりあう納豆が
雲南市 熱田 一俊

おことわり 歌壇選者の加藤治郎さんは都合によりお休みし、他の選者3人で選歌を行います。ご了承ください。

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100−8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム（https://mainichi.jp/kadan-haidan/）でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や、同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁です。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。

入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開し、本社が作成または許諾した出版物やメディアに掲載することがあります。